

# 環境に配慮し実践する大会

滋賀県に受け継がれている身の回りの生活から自然環境を考える取組。

これらの取組を大会に関わるすべての方が実践できるよう、MLGs宣言を行い、大会準備・運営のあらゆる場面で環境配慮に取り組みました。

## ◆わたSHIGA輝く国スポ・障スポMLGs宣言◆

1. 滋賀・びわ湖からSDGsへとつながるMLGs、その出発点である「一人ひとりの行動の変化」に着目し、両大会における様々な場面で、環境に配慮した大会を目指します
2. CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組むことを参加者で共有し、「自分ごと化」して身近な行動につながる大会を目指します
3. 得られた成果を県民・企業・市町等と共有することで、スポーツを通じた持続可能な社会に繋がる大会を目指します



### 滋賀県での大会だからできること—県民に根付く環境配慮の意識を大会を通じて広げる—

滋賀県では「石けん運動」をはじめ、身の回りの生活から自然環境を考える取組が脈々と受け継がれており、近年では2050年CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロ（CO<sub>2</sub>ネットゼロ）を目指す「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロムーブメント」、人と自然との共生を意識した琵琶湖版SDGs「マザーレイクゴールズ」（MLGs）を掲げ、環境に関する様々な取組を行っています。環境に係る課題解決には一人ひとりが身近な問題として捉え、県民や企業等も巻き込んだ幅広い分野における行動が必要不可欠です。そこで、両大会に関わるすべての参加者がスポーツの楽しさや感動を分かち合うとともに、プラスチックごみの削減などの環境配慮行動につなげられるよう様々な取組を実施しました。



## ◆両大会で使用した環境配慮の製品◆

PLA樹脂コップ



給水に使用するコップにはサトウキビが原料のPLA樹脂を使用

大会メダル



原料の一部に使用しなくなった学生服のボタンを使用

ブラカーダー帽子



琵琶湖の保全を目的に刈り取ったヨシを使用

## ◆マイボトル持参の呼びかけ◆

（ウォーターサーバー設置）

ペットボトル削減数  
約40,000本

主会場の彦根総合スポーツ公園をはじめ、各競技会場にウォーターサーバーを設置。来場者向けのマイボトル持参企画を実施するなどマイボトル習慣の意識付けを図った。



## ◆リユース食器使用分別の推進◆

約1万個の  
リユース食器を使用

おもてなSHIGAエリアにおける飲食ブースの出展者にリユース食器の使用を依頼し、使い捨てプラスチック削減を図った。また、エコステーションでの返却を促し、リユース食器を活用した分別・返却の仕組みづくりを進めた。



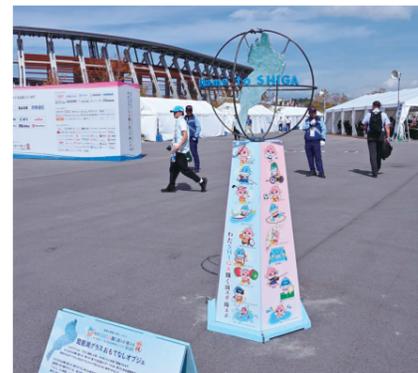
## ◆再生繊維100%等の環境に配慮したスタッフウェアの採用◆

約85,000本の  
回収ペットボトルを使用

大会の運営スタッフやボランティアが着用する13,800着のスタッフウェアに、回収ペットボトル等から作られたリサイクル繊維100%素材を採用。



## ◆その他の環境配慮の取組◆



アップサイクルされた琵琶湖ガラスを用いた「おもてなしオブジェ」を制作



寄附いただいたJ-クレジットでCO<sub>2</sub>の一部オフセット



大会を契機としたCO<sub>2</sub>ネットゼロアクション